

# 図画工作・美術

児童生徒が、参考にしたい画像や資料を検索し、見方や感じ方を深めたり、取り込んだ画像の大きさを変え、変形させる、配置を換える、色彩を変えるなどして、アイデアを豊かにしたりする授業

## 子供の視点から

- ①表したいことが決まらないときに、クラウド上の付箋ツールに、児童・生徒個々に表したいことや悩みを書き込んだり参考にしたい画像を貼り付けたりして、それに対して互いに質問や感想を書き込むことで、友の考えを参考に自分が表したいことを決めだしていけそうです。
- ②学習成果を自覚し、次時の目標がもてるように、クラウド上の表計算ツールに、毎時の学習成果と課題などを書き込む場を設定します。児童生徒は、友の学習成果を参考に、自分自身の学習過程や成果をふり返り、自分自身の育ちを実感していきます。

アイデアが湧き出て、広がる授業

## 問題解決の過程の視点から

- ①例えば、鶏を描く題材で、何をどう表現したらよいか悩む児童生徒が、鶏の生態を調べて描く場面を決めたり、表したい感じが表れるよう取り入れたいモチーフの画像をインターネットで検索して取り込み、文章作成ツール上でレイアウトをしたりして、発想や構想の力を伸ばすことができそうです。
- ②例えば、文化祭ポスターの画面を考える題材で、誰にでも伝わるポスターにするために、クラウド上の文書作成ツールを用いて、友と相談しながらモチーフの変形、配置変え、色彩変えなどを行い、画面構成を考えていくことで、発想や構想の力を伸ばすことができます。

## 教材の視点から

実際にものに触れたり見たりすることが、図画工作、美術科の資質・能力の育成において重要であるので、資質・能力を育成するために効果的なアプリや、その活用場面や方法を十分に検討します。

- ①鑑賞を通して、見方や感じ方を広げたり深めたりするために、小グループで、鑑賞作品についての気付きや考えなどを、付箋ツールに書き出し、思考ツールを用いてまとめるなどして、解説を作る学習が考えられます。
- ②画面構成を考える場面では、文章作成ツールやプレゼンテーションソフトを用いることで、描き直す手間を省き、表したい画面になっているか確認しながらアイデアを練り続けることが可能です。

## StuDX Style (文部科学省より)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/mext\\_00008.html/](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00008.html/)



# 実践報告 小学校第5学年「あっとおどろく動画をつくろう」

## アップデートしよう

- ①付箋ツールを使い、互いの課題の解決策を、協働で考えたり友に提案したりすることができるようにします。
- ②製作場面で端末を利用し、主題に合う材料の組み合わせ方や配置について試行錯誤できるようにします。
- ③作品を授業支援クラウドサービスにアップし、友の作品を参考に、自分の作品を見返すことができるようにします。

## 使用したアプリ

- ・付箋ツール
- ・授業支援クラウドサービス
- ・コマ撮りアニメーション作成アプリ

## 本時のねらい

グループの友からもらった解決策を基に、自分が表したいことが友に明確に伝わる動画にするための材料の配置や組み合わせ方などを考えることができる。

### 導入

解決の見通し

前時の個人の課題を共有し、学習のねらいを据える。写真①②  
※5つの考える視点を確認し、学習課題をもつ。

### 展開

共同追求・個人追求

近くで座る子供同士で小グループをつくり、互いの課題の解決策を提案し合い、解決の見通しをもち、それを基に製作する。写真③④  
※付箋ツールは友と共有されているため、記入した付箋をつかって解決策を提案していく。

### 終末

相互鑑賞・振り返り

授業支援クラウドサービスにアップした自他の作品を鑑賞し、本時を振り返る。写真⑤⑥  
※本時のねらいに沿った振り返りをワークシートに記入する。

★自他の課題の解決策を導き出すために、付箋ツールを使います。瞬時に多くの人の考えを共有し、思考ツールを使って共通点や相違点を見いだしたり関連付けたりして、解決策をつくらせたり提案したりすることができ



### 児童生徒の姿から

(動画タイトル「筆箱から飛び出したはさみが！」再生時間6秒をつくるHさんの姿から)  
 材料の動き、数、種類が変化する動画で友を驚かせたいと考えていたものの、表現に物足りなさを感じていたHさんは、「落ちていく迫力を出したいけれど、どうしたらよいのかな」とつぶやきました。(写真①)

Hさんがいるグループでは、Hさんの課題を共有した後、作品に対する印象や改善点を付箋に入力して貼り付けました。そして、付箋を、入力された内容ごとに分類し、共通点や相違点を見つけたり関連付けたりし、そこから考えられたアイデアを付箋に入力して貼るなどの同時共同編集をすることで、「もっとはく力を出すために、いん石(動きや奥行き)を使ってみたらよいのではないか」という解決策を考え出すことができました。(写真③)

Hさんは、考え出した解決策を基に、はさみが落ちて迫ってくる感じを表そうと、はさみを下から撮れるよう端末を床に置き、はさみの大きさや位置を考えながら製作していききました。(写真④)

授業の終末では、Hさんは、右のように、友と様々な考えを基に課題の解決策を考え合ったことで、これまで思い付かなかった新たなアイデアがもてたこと、いん石の表現効果を生かして動画ができたことをワークシートに記入しました。

今日は、友だちのいろんなアイデアも付箋ツールを使って考えたら、こちに向かってせまってくる感じを出すためにいん石を使いあげいいんだと思ってやってみました。それ前の方がよりいい感じになりました。これならきっと友だちもビックリすると思います。みんないろいろなアイデアを出して、それをグループ分けしたり、友印でくっつけると、どんどん新しいアイデアがうかんできて楽しかったです。

### 授業者の先生から

本題材は、ペアを組み、常にペアで相談し合いながら製作をしていましたが、アイデアが広がらない様子でした。しかし、付箋ツールを使って協働的に考え合うことで、ペア以外の友の様々な考えを基に解決策を考えたり提案したりすることができたので、これまでになかった新たなアイデアがもてたり、自分の考えを確かにしたりする子どもの姿が見られました。

### この事例のポイント

- ・本題材では、育成したい資質・能力に照らして、コマ撮りアニメーション作成アプリからできる表現を使って製作をしましたが、さらに発想や構想に関する資質・能力の育成を図るために、付箋ツールも使って協働的にアイデアを練り合う場を設定しています。
- ・子どもたちは、互いの考えが入力された付箋を内容ごとにまとめ、共通点や相違点を見つけたり関連付けたりする中で、自分たちで考えやすいように、思考ツールに矢印や挿絵、コメントをかきながら、解決策を導き出しました。付箋ツールを使うことで、このような工夫ができます。